

## 【中国】

# 2020 年第一四半期の造船業動向

蔣 垂東 文教大学文学部教授

2020 年 1～3 月の造船統計を中心に新型コロナウイルス蔓延下の造船業の動向についてレポートします。

## 1. 2020 年第一四半期造船業の動向

### 1.1 新船受注量世界一に

英国海運調査会社クラークソンリサーチの発表によると、2020 年 1～3 月の世界の標準貨物船標準トン数ベースの新船需要は 262 万 CGT に止まり、前年同期の 573 万 CGT に比べ 54.3%と大きく減少した。そうした中、表 1 が示すように、国別では、中国の造船企業は全体の 64.8%にあたる 170 万 CGT を受注、新船受注量世界一となり、ライバルである韓国の 43 万 CGT(シェアは 16.6%)、日本の 19 万 CGT(シェアは 7.2%)を大きく引き離れた。また、3 月末現在の手持ち受注残高でも中国は 46.3%のシェアを誇り、引き続き世界一位を維持している。一方、完成量では、僅かながら日本と韓国に後塵を拝している。表 1 は 2020 年 1～3 月の中国・韓国・日本の新船受注実績、完成量、手持ち受注残高の対比である。

表 1 2020 年 1～3 月日中韓三国新船受注実績の対比

項目		全体	中国	韓国	日本
新船受注実績	DWT	746.0	489.0	186.0	34.0
	シェア	100.0%	65.5%	24.9%	4.6%
	CGT	262.0	170.0	43.0	19.0
	シェア	100.0%	64.8%	16.6%	7.2%
完成量	DWT	2,306.0	700.0	725.0	788.0
	シェア	100.0%	30.4%	31.5%	34.2%
	CGT	694.0	196	207.0	207.0
	シェア	100.0%	28.2%	29.8%	29.8%
手持ち受注残高	DWT	16,986.0	7,955.0	4,815.0	3,450.0
	シェア	100.0%	46.3%	28.3%	20.3%
	CGT	7,636.0	2,606.0	2,091.0	1,041.0
	シェア	100.0%	34.1%	27.4%	13.6%

クラークソンリサーチのデータによると、今年に入ってから 1 月の世界新船発注量は 33 隻、75 万 CGT で、中国の造船企業はその内の 22 隻、51 万 CGT を受注し、68%のシェアを占めた。一方、ライバルの韓国の受注実績は僅かに 1 隻、4 万 CGT に止まり、日本に至っては受注実績がゼロだった。韓国が強みを発揮する積載量 14 万立方メートル以上の大型 LNG 船と 12,000TEU クラス超大型コンテナの新船発注がなかったことは要因と見られている。

2 月に入ってから、韓国は新船受注実績を 33 万 CGT に増やして猛追したが、中国の受注量も 110 万 CGT に伸び、60%台のシェアを維持していたため、第一四半期は中国の圧勝となっている。なお、第一四半期中韓日 3 国を合わせた受注量は世界総受注量の 89%を占めている。

新型コロナウイルスの蔓延により、世界経済が大きく落ち込み、長期低迷に陥っている国際船舶市場の復調の足を引っ張る大きな重石となり、船主と投資家のマインドに深刻な影響をもたらしていることから、今年通年で新船の発注量は 4,000 万 DWT を割り込むと予測されている。

出典：

(1)中国船舶工業協会 HP

<http://www.cansi.org.cn/ifor/shownews.php?lang=cn&id=14127>

(2) 中国海事服務網

<https://www.cnss.com.cn/html/shipbuilding/20200212/334157.html>

(3) 中国海事服務網

<https://www.cnss.com.cn/html/sdbd/20200319/334951.html>

### 1.2 第一四半期国内造船業統計

新型コロナウイルスの世界規模の感染拡大と国際的な海運市場の持続的な低迷の影響を受けて、中国の造船業は、2020 年 1～3 月期の完成量と手持ち受注残高が前年割れとなった。新規受注量は小幅な成長を維持しているものの、主要造船企業の企業業績は生産高をはじめ、各指標とも前年同期を下回

った。

### 1.2.1 第一四半期造船業三大指標、一増二減へ

表2が示すように、第一四半期の中国造船業の新規受注量は前年同期対比(以下同じ)6.5%伸びたものの、完成量と3月末現在の手持ち受注残高はそれぞれ26.3%、5.6%減少した。新規受注量がプラス成長となったのは、前年同期の落ち込み幅が大きく、母数が小さかったためとされている。輸出では、1~3月の完成量と新規受注量はそれぞれ18.8%と12.1%伸び好調に推移し、手持ち受注残高は4.4%と小幅ながら前年割れをした。また、輸出が全体に占める割合がさらに拡大して90%台で推移している。

表2 2020年1~3月中国の造船指標(万トン)

実績 項目	全体 (万 <sup>ト</sup> )	対比 (%)	内、輸出船舶		
			実績 (万 <sup>ト</sup> )	対比 (%)	シェア (%)
完成量	700.0	▲27.3	685.0	18.8	97.9
新規受注量	489.0	6.5	464.0	12.1	94.9
手持ち残高	7,955.0	▲5.6	7,319.0	▲4.4	92.0

\*重量=DWT

### 1.2.2 主要造船企業の業績も一増二減へ

造船業で重点監視対象である50社の造船企業を合わせた第一四半期の完成量、新規受注量、手持ち受注残高主要3項目の指標も、新規受注量は伸びたものの、完成量と手持ち受注残高は前年割れだった。詳細は表3の通りである。

表3 2020年1~3月造船業主要50社の主要指標(万トン)

実績 項目	全体 (万 <sup>ト</sup> )	対比 (%)	内、輸出船舶		
			実績 (万 <sup>ト</sup> )	対比 (%)	シェア (%)
完成量	689.0	▲22.9	675.0	▲21.3	98.0
新規受注量	472.0	10.8	448.0	16.4	95.1
手持ち残高	7,694.0	▲7.3	7,109.0	▲5.3	92.4

\*重量=DWT

### 1.2.3 造船業主要企業が減収減益へ

景気低迷の中、造船企業重点監視対象75社の第一四半期の本業収入は436億円(1元=約17円、以下同じ)に止まり、15.6%減少し、利益は3.3億円の赤字だった。表4は、造船企業重点監視対象75社の生産高を示したもので、船舶製造、船

舶部品、船舶修理3項目の内、プラスを維持しているのは船舶修理のみで、船舶製造と船舶部品は大きなマイナスとなった。

表4 2020年1~3月船舶業主要75社の生産高

項目	金額	生産高 (億元)	対比 (%)	内、輸出分	
				生産高 (億元)	対比 (%)
全体		610.0	▲21.5	226.0	▲25.5
内 訳	船舶製造	281.0	▲18.0	177.0	▲22.1
	船舶部品	39.6	▲26.8	7.1	▲35.0
	船舶修理	33.0	11.2	20.6	9.9

出典：中国船舶工業協会HP

<http://www.cansi.org.cn/iframe/shownews.php?lang=cn&id=14127>

## 2. 2019年沿海省内航輸送用船舶統計

2019年12月31日現在の全国沿海各省の内航輸送用船舶の統計がこのほど発表された。それによると、2019年末現在の沿海省内航用のバラ積みドライ貨物船(大型特殊船、多目的船を除く)、コンテナ運搬船(積載量700TEU以上のもの、多目的船を除く)、油槽船(原油運搬船、燃料油運搬船を含む)、化学製品運搬船(石油精製品、液状化学製品を含む)、液化ガス運搬船の種類別船舶の隻数、DWTベースの積載重量、船齢が表5の通りである。

表5 2019'中国沿海省内航用船舶統計

種類	隻数	積載重量 (万 <sup>ト</sup> )	船 齢		
			平均 (年)	老朽船 (隻)	特検船 (隻)
ばら積みドライ貨物船	1,752 (-80)	6,247.51 (-0.05)	10.67	221	24
コンテナ船	290 (+38)	77.11万TEU (+5.53万TEU)	9.35	33	2
油槽船	1,249 (-47)	1,028.44 (+4.10)	10.51	490	9
化学製品船	281 (-7)	112.25 (-0.65)	10.69	133	2
液化ガス船	73 (+1)	24.82 (+0.02)	12.31	27	4

\*下段は前年対比の増減状況を示す

\*\*老朽船とは、船齢は、ばら積みドライ貨物船で18~27年、コンテナ船で20~28年、他の船舶で12~25年の老朽化したものを指す。

\*\*\*特検船とは特別検査を要する船舶のことで、船齢はばら積みドライ貨物船で28年以上、コンテナ船で29年以上、他で26年以上のもの指す。

出典：中国海事服務網

<https://www.cnss.com.cn/html/sdbd/20200309/334737.html>

### 3. 2019年の新船受注実績、二年連続で韓国に負ける

表6が示すように、クラークソンリサーチのデータによると、2019年の世界造船統計では、新船受注実績、完成量、手持ち受注残高3項目の内、中国はCGTベースの新船受注実績で韓国を下回り、二年連続で韓国に次いで世界二位に甘んじた。一方、完成量と2019年末の手持ち受注残高では中国は引き続き韓国をリードし、世界一の座を維持している。

表6 2019年日中韓三国造船業主要3指標の対比

項目		全体	中国	韓国	日本
新船受注実績	DWT	6,534.0	2,907.0	2,357	1,123.0
	シェア	100.0%	44.5%	36.1%	17.2%
	CGT	2,574.0	864.0	943.0	336.0
	シェア	100.0%	33.6%	36.6%	13.0%
完成量	DWT	9,882.0	3,672.0	3,262	2,484.0
	シェア	100.0%	37.2%	33.0%	25.1%
	CGT	3,266.0	1,094.0	951.0	815.0
	シェア	100.0%	33.5%	29.1%	24.9%
手持ち受注残高	DWT	18,764.0	8,166.0	5,425.0	4,156.0
	シェア	100.0%	43.5%	28.9%	22.1%
	CGT	7,573.0	2,632.0	2,254.0	1,199.0
	シェア	100.0%	34.8%	29.8%	15.8%

\*万トン

2019年は、韓国の造船企業は、世界総需要で17.4万立方メートル大型LNG運搬船51隻中全体の94%にあたる48隻を受注、VLCCは全体の58%にあたる18隻を受注、超大型コンテナ船では、全36隻中61%にあたる22隻を受注するなど、高付加価値船の受注で他を圧倒し、中国と日本を凌駕した。

出典：中国海事服務網

<https://www.cnss.com.cn/html/sdbd/20200108/333737.html>

### 4. 2019'世界造船所受注規模上位50社、中国の24社がランクイン

クラークソンリサーチがこのほど、2019年末現在のCGTベース受注量規模別世界造船所上位50社を発表した。表7が

示すように、中国からは24社、日本からは9社、韓国からは6社がランクインし、中日韓3国で39社を占めている。韓国企業のランクイン数は6社と、3カ国の中で最も少ないが、上位10社で5社を占め、しかも1~4位を独占し、企業規模で日中両国の企業を大きく凌駕している。

表7 2019年世界造船所受注量規模別上位50社

No.	造船所	国	隻数	DWT (000)	CGT (000)
1	三星重工	韓	107	11,789	6,142
2	大宇造船	韓	73	11,837	4,927
3	現代重工(蔚山)	韓	87	12,464	4,577
4	現代三湖重工	韓	73	12,265	4,212
5	Chantiers de l'Atlantique	仏	12	34	1,936
6	Fincantieri(Monfalcone)	伊	14	34	1,793
7	上海外高橋造船	中	48	8,301	1,785
8	江南造船	中	49	3,523	1,704
9	現代尾浦造船	韓	82	2,744	1,686
10	大島造船	日	90	6,049	1,596
11	新時代造船	中	48	7,580	1,441
12	Meyer Werft	独	11	64	1,432
13	広船国際南沙造船	中	44	2,672	1,206
14	Meyer Werft(Turku)	Fin	7	92	1,135
15	今治造船(丸亀)	日	33	3,814	1,124
16	中船黄浦文冲	中	63	2,212	1,032
17	大連船舶重工	中	29	5,988	1,019
18	北海船舶重工	中	27	6,404	1,009
19	MV Werften(Wismar)	独	8	—	958
20	華南造船	中	14	2,103	946
21	Fincantieri(Marghera)	伊	7	10	934
22	揚子江船業	中	43	2,325	919
23	江蘇揚子鑫福造船	中	23	4,668	890
24	揚州中遠海運重工	中	35	4,147	838
25	常石集団(舟山)*	中	43	2,103	806
26	今治造船(広島)	日	20	2,614	783
27	Fincantieri(Sestri)	伊	8	8	754
28	今治造船(今治)	日	43	1,384	728
29	沪東中華造船	中	17	1,089	676
30	南通象嶼造船	中	39	1,991	648
31	南京金陵造船	中	24	448	600
32	大韓造船	韓	22	2,831	597
33	招商局重工(江蘇)	中	17	828	549

34	常石集团(Cebu)	比	32	1,925	549
35	Fincantieri(Ancona)	伊	8	41	548
36	天津新港船舶重工	中	16	2,306	513
37	馬尾造船	中	44	607	506
38	中船澄西	中	27	1,706	481
39	Vinashin Ninh	越	21	1,182	478
40	日本造船連合(有明)	日	11	3,289	467
41	今治造船(西条)	日	12	3,123	466
42	泰州三福船舶重工	中	29	1,122	465
43	Zvezda	露	19	1,348	436
44	名村造船	日	15	2,527	431
45	大連中遠海運川崎*	中	19	2,014	423
46	南通中遠海運川崎*	中	17	2,227	422
47	江蘇韓通船舶重工	中	15	2,165	400
48	日本造船連合(呉)	日	14	1,568	386
49	招商金陵(威海)	中	10	53	377
50	日本造船連合(津)	日	11	2,168	364

\*中国企業 24 社中、常石集团(舟山)、大連中遠海運川崎、南通中遠海運川崎の 3 社は日中合弁企業

2019 年 12 月末現在の全世界の手持ち受注量は 7,719.3 万トン(CGT)で、上位 50 社の合計は 5,909.4 万トンに達し、全体の 76.55%を占めている。隻数では、全 3,016 隻の内、上位 50 社が全体の 52.38%にあたる 1,580 隻を占めている。国別では、表 8 が示すように、韓国、中国、日本は、受注量で世界のトップ 3 となっている。なお、欧州系造船所 9 社を合わせた受注量は 992.6 万トンで、全体に占めるシェアが 12.85%となっている。

表 8 造船企業上位 50 社にみる日中間の対比

順位	国	企業数 (社)	受注量 (万トン)	シェア
1	韓国	6	2,214.1	28.68%
2	中国	24	1,965.5	25.46%
3	日本	9	634.5	8.21%

出典：中国海事服務網

<https://www.cnss.com.cn/html/sdbd/20200207/334105.html>